

試験日 ： 2025 年 11 月 9 日（日）
入試種別 ： 3 年次編入学・転入学試験
学部・研究科： 農学部 食料農業システム学科
科目名 ： 専門科目Ⅰ・Ⅱ（食料経済学）

解答又は解答例

【1】

〔評価のポイント〕

- ① 経営規模が零細であること、食料自給率が低いこと、担い手が高齢化していることなど、現代の日本農業が抱えている課題についてあげているか。
- ② 上にあげた課題が生じた理由について、日本の経済あるいは社会のこれまでの動きや現状など、経済および社会的な面から説明しているか。
- ③ 課題を解決する方法として、現在議論されたり実行されたりしている政策や取り組みについて具体的に述べているか。それについて自身の見解を述べてもよい。

【2】

〔解答例〕

- ① 需要の所得弾力性とは、所得が1%変化したとき、ある財・サービスの需要量が何%変化するかを示す指標である。日本の農畜産物の消費を例として考えると、米などの主食用穀物は所得が増えても需要はほとんど増えないため、所得弾力性は低くなる。和牛や高級果物などは所得増加に伴い需要が比較的大きく伸びると考えられ、所得弾力性は米よりも高くなる。（163 字）
- ② 6次産業化とは、今村奈良臣が提唱した概念で、農業などの第一次産業に従事する主体が、生産（1次産業）に加え、加工（2次産業）や販売・サービス（3次産業）まで一体的に行う取り組みであり、産業を掛け合わせることがその名の由来である。これにより付加価値を高め、農村地域の所得向上や雇用創出、地域活性化につなげることが期待されている。（162 字）
- ③ 農業の多面的機能とは、農産物の生産だけでなく、国土の保全や水源の涵養、景観の維持、生物多様性の保全、文化の継承など、農業が環境や社会に対して持つさまざまな役割を指す概念である。これらは生産物価格に反映されない外部効果であると考えられ、日本を含む複数の国・地域において直接支払型の補助金制度の根拠となっている。（154 字）
- ④ フードシステムとは、従来の農業経済学が主に農業生産や農業経営を重視してきた

のに対し、農林水産物の生産から加工・流通・消費に至る一連の過程と、それに関わる主体間の関係を捉える概念である。この過程は複雑で重層的だが、BSE 問題への反省も踏まえ、とりわけ消費者の選好や行動を重視し、消費の視点から全体を把握することが重要とされる。(160 字)

- ⑤ 食料自給率とは、国内生産された農畜産物などの食料（餌など輸入由来の部分は除く）と、輸入を含む国内で消費される食料との比のことである。品目別自給率は重量ベースで算出される一方、総合食料自給率はカロリーベースや生産額ベースで算出される。日本のカロリーベースの総合食料自給率は過去半世紀余りの間低下を続け、近年は 4 割弱で安定している。(164 字)
- ⑥ エンゲル係数とは、家計の消費支出に占める食料費の割合を示す指標であり、生活水準の目安とされる。食料消費は所得弾力性が低く、所得が増えても支出は大きくは増えないため、所得が高いほどエンゲル係数は低くなる傾向がある。近年の日本では物価上昇の影響でエンゲル係数の上昇がみられ、家計負担の増加が指摘されている。(151 字)